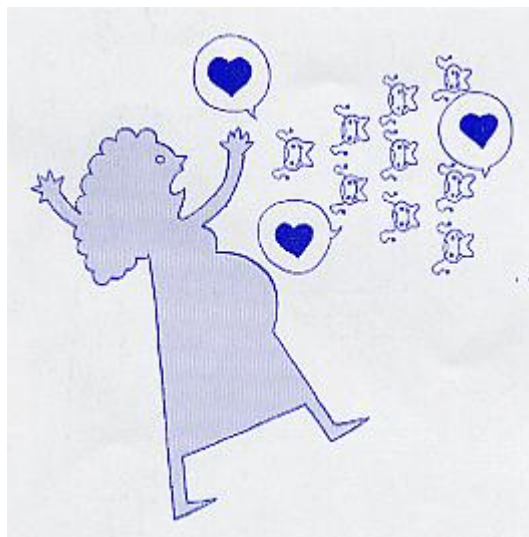


歯科からみた母と子の関係

本号では、母親の口の中の状態が子供にどのような影響を与えるのかを述べてみたいと思います。

虫歯菌は、母から子へと感染する

虫歯は虫歯菌(ミュータンス菌など)によって起きる病気です。でも、この細菌が母から子供へと感染する事を知っていますか。特に虫歯が多く、たくさんの菌をお口の中にもっているお母さんは要注意です。お母さんが治療を受ける事は生まれてくる子供の虫歯を防ぐためにもとっても大事です。ある研究では、虫歯が多くてもその治療や指導管理を受けた母親に育てられた子供は、虫歯を放置した母親に育てられた場合に比べ虫歯にならない率が明らかに高い事を示しています。また、最近、咀嚼と脳の関係がよく取り上げられ、虫歯でよく噛めない子供は学業成績に影響するとの研究もあります。母親は子供のためにも一度歯科医院で健診を受けられる事をお勧めします。



歯周病は、未熟児出産の危険を高める

歯肉が赤く腫れ、出血しやすくなった状態を歯肉炎といいます。また、歯肉だけではなく歯を支える骨にも影響が及んだ状態が歯周炎です。ですから、歯周炎が進行すると歯を支えた骨が溶かされ、なくなりますから、歯がぐらぐらするようになるのです。そしてこれらはいずれも歯垢に含まれる細菌により起こります。妊娠期では、ある歯周病に関連する細菌が、妊娠期に分泌の増える性ホルモンを利用して増えるため妊娠性の歯肉炎を起こします。また、歯周病菌が作り出した毒素が血流にはいり早産や未熟児の原因になることもわかっています。妊娠期の歯ぐきのトラブルは本人はもとより生まれてくる子供にも大きな影響を与えるのです。



妊娠期の歯科治療

今まで述べてきたように妊娠期に歯や歯肉に配慮するのは大事ですが、この時期の歯科治療はどうしたらいいのでしょうか。妊娠期の歯科治療でもっとも適しているのは安定期の5～7ヶ月とされています。初期にはつわりがひどかったり、着床が十分でなく流産を起こしやすいなどの心配があり、長時間寝たままの治療が困難になったり、早産の危険があるためです。治療中のX線撮影について心配される方もおられますが防護エプロンをつけての最小限の撮影ですのでほとんど影響はないと思われます。それよりも的確に診断して苦痛を取り除く事が大事です。



かかりつけの歯科医をもとう

- ★定期的に歯の健診を受けよう
- ★年に一回は歯石をとってもらおう



☆各市町村の成人歯科検診（30才、40才、50才）
は休祭日歯科当番医にて、休祭日も受け付けています☆
歯科医師会ホームページアドレス：www.yutopia.or.jp/~yoda/